

後向き観察研究用

本院患者さんへの情報公開用文書（ホームページ、掲示用 周知文書）

「くも膜下出血後の症候性てんかんとヘモジデリン沈着の関係についての検討」
についてのご説明

●はじめに：

くも膜下出血（SAH）後の後遺症としてのてんかん発作は、10%前後の頻度で発生し、予後に大きな影響を与えますが、その機序についてははっきりしておらず、正確な予測はできていません。本研究の目的は、くも膜下出血後の脳表のヘモジデリン沈着と症候性てんかんとの関係を検討し、予後予測因子の1つとなるか明らかにするものです。

●研究対象：札幌医科大学、王子総合病院、函館新都市病院の3施設において、2000年1月1日から2016年8月31日の間に動脈瘤破裂によるくも膜下出血の診断で入院した患者さんを対象にしています。

●研究内容：発症後30日以後に撮影されたT2*強調画像を評価して、脳実質へのヘモグロビン沈着の有無とその後の症候性てんかんの発症について後方視的に検討を加えます。なお、この研究を行うことで患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

●患者さんの個人情報の管理について：

本研究では個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化など秘密保護に十分配慮します。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

●患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について：

2000年1月1日から2016年8月31日の間に札幌医科大学、王子総合病院、函館新都市病院の3施設において、動脈瘤破裂によるくも膜下出血の診断で入院した患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。

●予定症例数 200 症例

●研究期間：（病院長承認日）から 2019 年 12 月 31 日まで

●医学上の貢献：研究成果は、くも膜下出血後に症候性てんかんを発症する予測因子を見極める一助となり、患者さんの治療と予後改善に貢献することが期待されます。

●問い合わせ先：

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 脳神経外科

本院研究責任者 三國 信啓、同研究分担者 三上毅、飯星 智史、江夏怜

【平日 TEL (011) 611-2111 内線 3351 (教室) 休日・時間外 FAX (011) 614-1662】